ISSN 0910－2396

野鳥だより

—北海道—

第 94 号

編集・発行　北海道野鳥愛護会

発行年月日　平成５年12月21日

ヤマセミ　60年1月　余市　撮影者　赤城誠二

もくじ

豊平川バードウォッチング－札幌市中心部の－…戸津　高保……2
探鳥会報告……6
探鳥会案内……9
鳥民だより……10

豊平川バードウォッチング
―札幌市中心部の―

戸津　高保

昭和63年から、毎年６月に札商高校の理科の授業で各クラスについて一時間ずつバードウォッチングを行なっている。札商高校から豊平川（南９条橋から幌平橋の間）まで生徒達と歩き、主に川原の鳥を観察している。私達の身近にどんな鳥がいるのかを生徒達に実際につかんでもらおうと思い、バードウォッチング授業を始めて今年で５年目となった。

札幌市の中心部を流れる豊平川で一時間の授業で平均10種近い鳥を確認している。この５年間で合計すると20種の鳥を観察した。結果は図１（年毎に見た鳥の種類）に示している。札商高校の正門前には小さな林があり、コメボソムシクイやセンダイムシクイはここで声を聞いた種類である。アマツバメや水辺の鳥を含め、この５年間を通じて思ったより多くの鳥が確認できたと思う。

この経験から、マガモ、イワツバメ、イソシギなどといった鳥達が一年間を通じてどの時期に豊平川に現われ、どの時期に去っていくのかを調べてみたいと思い「豊平川ウォッチング」を始めた。この観察は平成４年５月で丁度丸２年間となった。

４月から11月までは、毎月３～４回、自転車で豊平川右岸のサイクリングロードを走りながら、双眼鏡で鳥を見たり、声を聞いたりして種類を確認した。区域は南９条橋を起点として、下流はＪＲ苗穂鉄橋まで、上流はミュンヘン大橋までとした。鳥の種類数はこの区域のより上流部と下流部で多くなるのだが、物理的な面もあり、この区域の豊平川を観察することにした。

12月から３月までは毎月２回として、雪のあることが多いため、南９条橋から幌平橋までを歩いて一周しながら同じように鳥を確認した。観察時間は大体において午後４時頃が夏冬共に中心となった。

「豊平川ウォッチング」の２年間（平成２年６月～平成４年５月）に合計34種の鳥を確認している（図２）。このうち21種は２回以上記録していて、他の13種は、ただ一度だけ確認した種類であった。

月毎に観察した鳥の平均種類数を図３に示した。これをみると観察１年目（平成２年６月～平成３年５月）は４月が最高で、平均10・８種、１月が最低で４種であった。観察２年目では（平成３年６月～平成４年５月）５月が最高で10・３種、２月が最低で５・５種であった。

「バードウォッチング」の経験をする前には、札幌市の中心部に流れる豊平川で、スズメ、カラス、ドバトくらいしか見られないような感じを持っていたのだが、思ったより多くの鳥がここで見られる情況がある。春から夏にかけては、ヒバリ、イワツバメ、イソシギなどと共に、海鳥であるウミネコも予想外にこの区域に現われたし、冬にはカワアイサが、これも思いがけずに何回も観察された。

この中で、おもしろいと思ったのは、本来冬鳥であるマガモが札幌市中心部に一年中いついていることである。（私の記録では、平成４年４月２日に60羽程を観察したのが１日に確認した個体数では最も多かった。）この事実は割合新しい現象ではないかと思われる。私が記録し始めた昭和63年より数年前から、中島公園の池や鴨々川とその近くの豊平川にまたがって、すっかりマガモが札幌市にいついてしまっているようだ。おそらく中島公園の近くに住む市民が餌を与えたりしたことが、こうなった原因なのだろうか？。札幌っ子のマガモがいつ頃から誕生したのかは、今後も調べてみたいと考えている。平成３年７月12日に、生まれてまもないヒナを８羽つれた雌ガモを見ているので、この付近で繁殖しているのは確かであろう。日本に来るマガモの大部分は、春にはシベリア方面に渡り、秋に日本にもどってくるのだが、少な

くともここ7、8年以上は、マガモの一部が豊平川で留鳥として過していることになる。

マガモに対して、近年全国的な話題となっているカルガモは、この2年間のウォッチングで4回しか豊平川で観察していない。この少なさはちょっと意外な感じがした。もっとカルガモが姿を見せてくれるのではないかと予想していたのだが一。カルガモはマガモに比べて、北海道よりは暖かい地方を好むのか、札幌では絶対数がマガモより少ないのか、また流れのある川よりは、池や沼などを好むのかなどと考えさせられる。この点も今後の課題である。

マガモとカルガモの雑種、いわゆるマルガモが平成4年1月23日に一度だけ記録された。私は弘前城のお堀で何度か見ているのだが、札幌では始めての観察である。他のカモ類、4種類はこの2年間で一度だけの記録であった。

夏鳥に目を向けるとイワツバメは、この5年間、毎年南9条橋の橋げたに巣づくりをしている。この種も本来、大都市の真ん中でヒナを育てる鳥なのか、と首をかしげてしまう。私の記憶では、平成3年は5月20日から、平成4年は5月7日から南9条橋に姿を現わし、ほぼ両年とも9月中旬にここから姿を消している。それにしても餌も充分に取れるとは思えない。こんな所でなぜ巣づくりをするのかと思う。イワツバメの行動圏は相当広いものなのかもしれない。

イソシギは平成3年は4月17日、平成4年は4月21日に、この区域に姿を現わした。にぎやかな独特の鳴き声を出す鳥で、この鳥が豊平川に入ってくると、イソシギより少し前に現われるヒバリと共に、川原もぐっと春らしく活気が出てくる感じがする。

それから7月20日くらいまではよく鳴き声が聞かれるのだが、その後はパタリと声を出さなくなり確認がむづかしい。9月始めぐらいまでは豊平川に留まり、繁殖をしていると考えられるが、まだ確認はしていない。イワツバメやイソシギなどの夏鳥が冬期にどこまで渡りをしているのかも興味のある事である。

ウミネコが8月を中心として南1条橋付近に姿を見せる。なぜ海鳥であるウミネコが札幌市中心部に何回も姿を現わすのかは、これも奇妙な感じがする。おそらく東区福移あたりから豊平川の川沿いに上ってくるのだろうが一。

ハクセキレイは12月～2月までの約3ヶ月間を除くと、豊平川で最を良く見られる鳥の一種であり、他の期間には、いつでも観察される。ここ数年は札商高校の旧校舎で続けて営巣している。

冬鳥ではカワアイサ（背が黒く腹部の白い大型のカモの仲間）が11月末から4月末にかけて、豊平川でこの2年とも見られている。

この観察を始める前には、この区域の豊平川でカワアイサを確認した記憶がない。約5ヶ月間も長く、ここに留まることから、豊平川も餌となるウグイなどの魚が増えているのかなと思われる。ごく最近姿を現わすようになってきたのか、これまで注意をしていなかったので、見すごしていたのかは不明である。

またカラス2種、ハシボソガラスとハシブトガラスの記録を見ると、豊平川では前者が圧倒的に多く見られ、それと比べて後者の観察例はその半分以下であった。札幌市でどちらのカラスが多いのかはつかんでいないのだが、豊平川におけるこの2種の違いには何か理由があるのだろうかー。

豊平川の川原のブッシュでは、この区域においてもアオジがいついたようで、夏にはサエズリも時々聞くことができる。コヨシキリは6月の一時期にサエズルのだが、これは通過途中のものだろう。

私はワシ・タカ類が好きで、その姿を見るとついホホがゆるんでしまうのだが、この2年間でチゴハヤブサを

図1　バードウォッチング授業
（南9条橋～幌平橋）

	63	平1	平2	平3	平4
	(16	15	12	14	14)
	6月	〃	〃	〃	〃
	10～13日	11～20	9～13	11～19	9～19
トビ			○	○	
マガモ	○	○	○	○	○
イソシギ	○	○	○	○	○
アマツバメ	○				○
ヒバリ	○	○	○	○	○
イワツバメ	○	○	○	○	○
ハクセキレイ	○	○	○	○	○
ヒヨドリ	○	○	○	○	○
モズ	○				
コヨシキリ	○	○			
コメボソムシクイ	○			○	○
センダイムシクイ				○	
シジュウカラ		○			
アオジ	○	○			
カワラヒワ	○	○	○	○	○
スズメ	○	○	○	○	○
ムクドリ	○	○	○		○
ハシボソガラス	○	○	○	○	○
ハシブトガラス		○		○	○
ドバト	○	○	○	○	○

３回、ハイタカを１回観察することができた。

北海道の水辺に多いアオサギは、さすがにこの区域の豊平川には姿を見せていない。「ウォッチング授業」で２回記録されているアマツバメは２年間の「豊平川ウォッチング」で一度も確認されなかった。これは時間的なものもあるのだろうか。

私が観察を続けている札幌市中心部を考えてみると、何ともなさけない程、川原に木が少ない。川は樹木の緑が縁どられてこそ川と言えると思う。自然に出来つつある川辺林（柳類が主体である）が成長してきてはいるのだが一。この区域にとりあえず点々と林が造られてくれば、以前から川の水がきれいさをとりもどしてきている

図２　豊平川ウォッチング（ミュンヘン大橋～苗穂鉄橋）

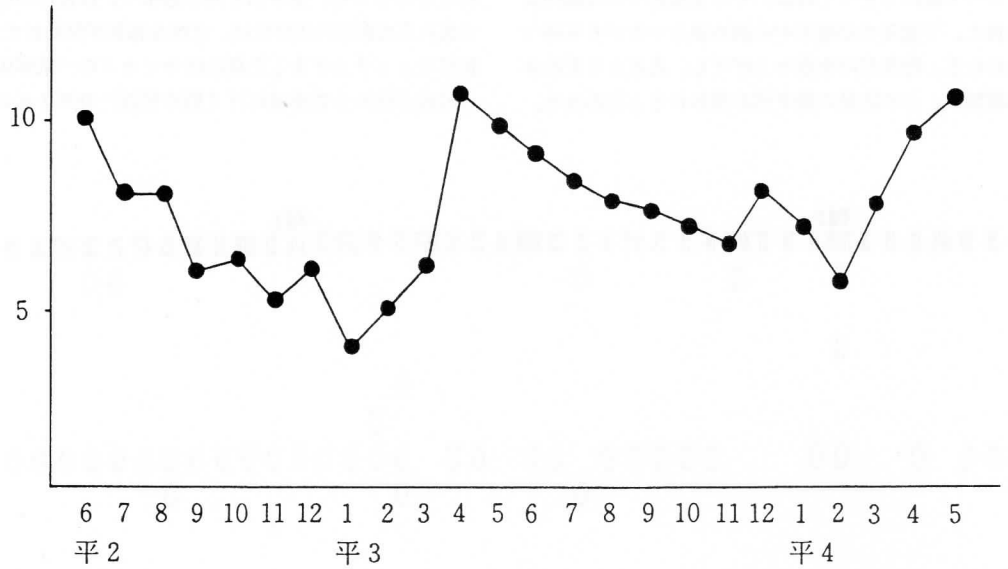
	平成2 6/6	20	27	7/11	19	22	8/8	12	17	23	9/5	12	19	26	10/3	11	17	31	11/6	15	25	12/16	26	1/9	30	2/14	27	3/13	27	4/10	17	24	28	5/1
トビ					○																								○	○		○		
ハイタカ																					○													
チゴハヤブサ								○	○																									
オシドリ																																		
コガモ																																		
マガモ	○	○	○	○	○	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
カルガモ																														○				
マルガモ																																		
オナガガモ																												○						
スズガモ																																		○
カワアイサ																					○	○	○		○		○				○	○		
コチドリ																																		
イソシギ	○	○	○	○	○		△																								○	○	○	○
ウミネコ								○	○	○																				○		○		○
カモメ																																		
カモメSP																																		
アジサシ																																		
ヒバリ	○	○	○	○					○			○																		○	○	○	○	○
イワツバメ		○	○	○	○	○	○	○	○	○		○																						
ハクセキレイ	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○								△	○	○	○	○	○	○
ヒヨドリ								○										○			○	○	○		○		○		○	○	○			○
モズ																																		
ツグミ																		○																
コヨシキリ			○																															
シジュウカラ																																		
ホホアカ									○																									
アオジ	○																																	
カワラヒワ	○	○	○	○	○	○		○		○					○	○				○										○	○		○	○
スズメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○	○	○	○	○	○			○	○			○		○	○	○
ムクドリ	○													○	○	○		○											○		○		○		
ハシボソガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ハシブトガラス	○									○		○										○						○		○	○	○		
ドバト	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○			○	○	○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○
シメ																			△															

豊平川が一層、自然の環境になってくると思われる。

この区域の豊平川の川原に将来帯状の森林がサイクリングロード脇にできてくれば、その上流部では真駒内公園の森と、下流部では雁木や中沼の森とつながりを持つことになる。野鳥だけを取り上げても、現在より更に多くの種類が、この区域の豊平川に現われると思われる。

私は仙台市の広瀬川を何度かバードウォッチングをして歩いている。街の歴史や地形的には札幌市の豊平川と異なるにしても、豊平川と同じ意味で、仙台市の中心部を流れる広瀬川の川岸には、立派な森林が保たれており、私がウォッチングをした夏にはヤマセミの一家が広瀬川（仙台市街から青葉城に行く橋の付近）でダイビングを

図3　月毎平均観察種類数



して魚をとっており、チョウゲンボウ、ゴイサギ、ニホンキジなどといった多くの鳥を川原で観察することができた。広瀬川は仙台市におけるバードウォッチングの第一級のポイントと言える。

自然が豊かだと言われている札幌市が、これ程樹木の少ないのっぺらぼうな豊平川を持つのは残念な事である。この区域の豊平川にとりあえず点状の、そして将来は帯状の森林をよみがえらせたいものだと考えさせられる。

現在も人口が増加している札幌市の中心部を考えた場合、緑を回復できるのはこの区域の豊平川しかないであろう。

ここで、ヤマセミやカワセミなどの野鳥が豊富に見られるような自然にあふれた環境づくりをしたいものだとつくづく思われるのである。

〒062　札幌市豊平区旭町4丁目1－14

鵡川河口の探鳥会に参加して

H5.8.29

土屋　尚

北海道野鳥愛護会の探鳥会に、初めて参加しました。シギ・チドリを目的にした探鳥会も初めてです。

場所は鵡川河口。天気は、集合時刻の頃は少し雲があったものの、晴れ。実は仕事の都合が、調度翌日から日高であったため、運良く参加できたのです。探鳥会の少し前までは台風も通過したりしていましたので、「ひょっとしたら珍らしい鳥まで、見れるかな…」と、余分な期待まで抱いておりました。

鵡川駅から少し移動し、車をおりて、牧場の中を歩きます。河口が見えてくると、アオサギやカモメ類、アジサシ等、遠くに確認できました。牧場の柵を越えた頃からは、「鳥が少ないなぁ」という参加者の声。でも、僕としては、牧場の中でたたずんで(?)いるムナグロとか、対岸にはじめて見れたアオアシシギとか、実りの多いものでした。今までは、たまにシギやチドリを見る機会があっても、大抵は鳥が遠いし、そうでなければ飛んで逃げていく姿だしだったので、ベテランの方の話を聞きながらゆっくり観察できて、とても勉強になりました。

今年のはじめには、「今年はシギ・チドリをやろう」と決意していたものの，仕事やら勉強不足やらで、二の足をふみつづける毎日。今回の探鳥会で「やっぱりオモシロイ！」と再確認し、やっとハマリはじめています。（という訳で、次回の鵡川にも来る予定です）

もちろん、牧場の中にポツンと残っている枯れ木にとまったハヤブサや、ビュンビュン飛びまわっていたツバメ類など、シギ、チドリの他にも美しく印象に残るものでした。ラムサール会議などのお影で少しは人々の興味をひくようになった光景や自然なのだろうとは思います

が、具体的な保護となると、なかなか簡単には進まないようです。鵡川河口だけではなく、北海道にまだ残されている〝あんな感じの〟自然を今後とも大切に守り伝えるため、少しずつでもやれる事から続けていこうと思ってます。

最後になりましたが、担当幹事の方をはじめ会員のみなさんに、感謝いたします。また、今後ともよろしくお願いいたします。

札幌市西区山の手２条９丁目１番１の304
☎011－621－4869

〔記録された鳥〕アオサギ、トビ、チュウヒ、オオタカ、ハヤブサ、スズガモ、ムナグロ、シロチドリ、アオアシシギ、ソリハシシギ、ウミネコ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、シロカモメ、ユリカモメ、アジサシ、キジバト、ヒバリ、ショウドウツバメ、ツバメ、ハクセキレイ、ノビタキ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシブトガラス、ドバト　以上27種

〔参加者〕井上公雄、泉勝統、大町欽子、栗林宏三、小堀煌治、小西良明、後藤義民、佐藤幸典、志田博明、白沢昌彦、竹内強、土屋尚、戸津高保・以知子、野坂英三、野口正男・キヨ、服部光博、久田伸一、松井昌、牧野洋子、森田新一郎、山本志津子、山田良造、柳沢信雄　以上25名

〔担当幹事〕竹内強、野坂英三

「男にときめかず鳥にときめく先生といつも一緒」
―鵡　川―　H５.９.12(雨)

伊　藤　あゆみ

『水戸から来た「あゆみ」でーす』大学を北海道に選んで無我夢中の折、男にときめかずに、鳥にトキメイている女先生に出会ったのが運が悪く私まで鳥のトリコになってしまった「あゆみ」です。今後共よろしくお願いします。

11日の土曜日、先生に電話したのが原稿書かされる結果になろうとは?!神様は教えてくれなかった。「12日朝6：30に桑園駅に来ててネ」までは良かった。アレヨ・アレヨとレジェンドが満員になった。先生の彼氏かな?と思った人ものりこんだ。が違ってた。まだ一度もみたことのない鵡川駅に着いた。何故?!どうして人・人がいるんだ。と思いながらも無口な私、先生に従った。スルト、「ワァ海ダ」そして「牧場ダ」「馬だ。」とみているうちに、ノビタキ・ヒバリ・ツバメとフィールドスコープをのぞかしてもらう。だが私には探鳥会などとは先生は一言もいわない。

私はキャノンの600㎜、レンズを持って、皆についていく。なんなんだこの団体は?!と考えているうちに風と雨だ。シギやチドリをみせてくれるが私はカメラの方が心配だ。ぬれてくるビジョビジョ（美女?美女）だ。体は寒い、足はグチョグチョ、先生は「寒かったら車にもどりなさい」という。がもどるのもめんどうだ。そのうちにやさしい今思うと竹内さんがポンチョを貸して下さった。ありがとうございました。体の冷えより靴の冷さより、買ったばかりのカメラが助った。ムナグロ・メダイチドリとかみせてくれた。チョコチョコ可愛いい。それにしても寒いヨー。皆は真剣に双眼鏡をのぞいている。先生も鳥に夢中になっている姿はオモシロイ。お嫁にいくのが先なような気もするが……

皆根生は今どきの大人にないようなものをもっていると感心?!したりしながら、探鳥会は終ろうとした時、「ハヤブサ」がいた。よーし、やっとカメラがと思ったら心が高なっていた。シャッター押す手がかじかんでいた。

魅力的な被写体だ。雄大な風景、美しい草花、600㎜F4.5、逆光の中でのハヤブサを撮る。野生鳥獣の撮影の前にやはり鳥の生態を知らねばネと先生は言う。

プロ、アマ問わず野鳥を撮影するカメラマンが多い今日、マナーの悪化が問題になっております。

子育てを放棄させるようなカメラマンにはならないでネと常々先生は語ってくれる。探鳥地を自分のもののようにふるまうことはしないこと等々。先生は注意してくれる。人間の足あとで、又姿でヒナをねらう鳥や動物の世界、自己満足と営利のためのヤラセと不自然なテクニックで固めた写真は本当の写真じゃないという先生、目がきらきらとしている。男のおさそいも受けているようだが、それには目もむけず、鳥の「オス」をさがして今日も張碓にアオバトの海水を吸飲するのをみるヨと朝の６時に私の部屋のチャイムをならしにくる。

ネムイヨーだが私もキラキラした熟女?になる為に先生の車の助手席に乗るのです。

撮影という行為は野生たちにとって、快いものではないでしょう。迷惑をかける以上、野生の美しさ、素晴らしさを守る為、彼らの生息環境を守る為に心に余裕をもち（先生のいつもの言葉）にのっとり探鳥会に参加させて下さい。（先生に一言　早くいい男みつけねばババーになって一生嫁にいケネイゼ！）（私はまだ18才　どうだ　くやしいだろうへへへ?!）

小樽市桂岡町５－７

〔記録された鳥〕アオサギ、トビ、ハヤブサ、コガモ、ムナグロ、ダイゼン、メダイチドリ、タカブシギ、イソシギ、トウネン、ハマシギ、ウミネコ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、ユリカモメ、キジバト、ヒバリ、ショウドウツバメ、ツバメ、ハクセキレイ、ノビタキ、カワラヒワ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ム

クドリ、トバト　以上27種
〔参加者〕長谷川稔、牧野洋子、佐藤登志子、佐藤嶢、柳沢信雄、後藤禮子、鷲田善幸・幸江・あすか、富川徹、土屋尚、木村侑司・英子、野坂英三、竹内強、松薗嘉裕・まさ子・絵里花、伊藤あゆみ、久保田和子、香川稔、石橋和子、佐藤ひろみ、小島マサヨ　他24名
〔担当幹事〕富川徹、竹内強

マガンの日本最北端寄留地、宮島沼にて
H 5. 10. 17

高　橋　奈穂美

「4000キロ　雁渡る」

おそらくこの文を読んでくださる皆さんには、すぐにピンとくるタイトルだと思います。私が宮島沼という場所をしっかりと認識したのは、この番組がきっかけでした。子供のころから自然に関する事には興味があり、この番組も何の気なしに観ていたのですが、やはり北海道がかかわるということもありグングンと引きこまれるものがありました。昔から日本と雁とは深いかかわりがあり、はたしてどこから来てどこへ帰るのだろう…日本人にとってこの課題は何百年もの間、謎のベールにつつまれたものだったのでしょう。ロシアの繁殖地で首に標識をつけられた雁が、秋の宮島沼で観察された場面はとても感動的なもので、私もぜひ観にいってみたいと思っていたところへ友人からの探鳥会の誘い。

さて、いざ宮島沼へいってみると地元の人曰く、マガンの行動パターンが例年と少し異なるとのことでした。午前中にえさをとりに飛びたつマガンが、かなり日暮れにならないと沼には戻ってこないというのです。それでも対岸の方には何百羽ものマガン、その他数種のカモたち、シギ、オオハクチョウなどがみられました。時々、集団で飛びたつマガンはきちんと列をなし、美しい姿で去っていきます。あっテレビと同じ…少しミーハーになってしまうひとときです。

昨年の地球サミット、今年釧路で開催されたラムサール会議と、昨今自然保護の熱は高まっていますが、その一時のみ大騒ぎをしてもどうしようもないところまで地球は追い込まれているのでしょう。宮島沼のマガンの行動の変化も、環境悪化の影響をうけてのことかもしれません。

これからもあまり気張らず地道に探鳥を続けていきたいと思っている私ですが、同時に、それを楽しむだけでなく何か自然を守っていく手伝いが少しでもできればと改めて思った一日でした。初めて参加した私にも親切にしてくださった参加者の皆様に感謝いたします。

帰り道、マガンの群れが、夕日をうけて沼の方へ戻っていく姿がとても印象的に心に残っています。

〒070　旭川市旭町１条２丁目
ティファニーハウス207号

宮島沼、鏡沼
〔記録された鳥〕
（宮島沼）カイツブリ、ミミカイツブリ、アカエリカイツブリ、ハジロカイツブリ、カンムリカイツブリ、アオサギ、トビ、ノスリ、オオハクチョウ、マガン、マガモ、カルガモ、オナガガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ツルシギ、ハマシギ、キジバト、ヒバリ、ハクセキレイ、エナガ、アオジ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス　以上26種
（鏡沼）カイツブリ、トビ、コガモ、マガモ、カルガモ、オナガガモ、キジバト、アオジ、ニュナイスズメ、ムクドリ　以上10種
〔参加者〕吉田司・行子、長谷川稔、山田良造、桝川保・弘子、横須賀邦子、及川慶子、小島マサヨ、田辺至、及川修、小堀煌治、鎌田博、佐藤章典、野坂英三、柳沢信雄、田中金作・礼子、戸津高保・以知子、工藤昌代、永島良郎、伊藤あゆみ、高橋奈穂美、佐藤ひろみ、佐藤勇、牧野洋子、和久雅男、星子康彰　以上29名
〔担当幹事〕戸津高保、山田良造

晩秋の野幌探鳥会
H 5. 10. 24

富　川　　徹

野外出張中の谷間にあったこの探鳥会も、数日前にめくった手帳の記述のおかげで担当幹事であることを再確認しどうにか恥じをかかずに済んだ。

このところ早朝起きが平常化となり、会が始まる前に「あるトリ？」を観察してきた。どうやら今日はあいにくの雨模様となりそうだ。歩きながら今日の参加人数のことを考えていると過去のことを思い出さないわけにはいかなかった。９年前のちょうど10月の探鳥会日も雨で、参加人数は当会の幹事５人だけというメンバー的にさみしいことがあった。少なくとも今日は過去のその時より上回ることを期待しながら入口で待つことにした。

９時をまわった。集まったのは柳沢会長をはじめとする会員数人と、同地で自然観察会（北海道自然観察指導員連絡協議会主催）に来ている会幹事２人と一般参加者である。合わせても十数人程度でお互い顔の知らないどうしでもないので、結局会長のご発案によりいっしょに歩くことになった。探鳥（自然観察）コースは、断続的な風雨のため予定を変更してユズリハコース～大沢コースに短縮し、解散も昼食前に引き返して行うことにした。

鳥の出現については限られたものがあったが、特にカラ類が真近かで観察できたのはよかった。また最近よく出現（姿・鳴き声にであう）しているという「あるトリ？」は残念ながら確認されなかった。言い渋るわけではないが、「あるトリ？」とは今年の春の一斉調査ではカウントできなかった“クマゲラ”のことである。この「あるトリ？」が野幌森林公園に生息すること事態極めて貴重な存在となった今では、その生息状況を把握しつつ保全するための糸口を早急にみつけなければならない時にきていると個人的には考えている。

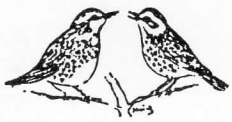
一方、探鳥会は指導員会との合同であったことから、幹事である大友さんの「針広混合林と二次林」、「アカエゾマツの天然更新」「紅葉のシステム」、「林班界」等などの解説も鳥を見る合間に聞くことができ、普段鳥だけに目を傾けがちな探鳥会とは違って、また探鳥会の新たな自然発見にめぐりあえたような大変有意義な日でもあった。

〒069　江別市文京台南町47－31

〔記録された鳥〕アカゲラ、コゲラ、ヒヨドリ、ルリビタキ、クロツグミ、キクイタダキ、エナガ、ハシブトガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、アオジ、カワラヒワ、カモメsp.以上12種

〔参加者〕伊東幸男、大友健、鎌田博、栗林宏三、今善三郎、須田節、芹沢裕二、富川徹、樋口達郎、久田伸一、宮尾佐代子、柳沢信雄、矢野玲子　以上13名

〔担当幹事〕富川徹、矢野玲子



〔藤の沢〕平成６年１月23日（日）

93号でお知らせ済みではありますが、今年は例年とは趣きを変え白鳥園周辺の探鳥会を行います。

10時・白鳥園出発、12時・白鳥園に戻り、昼食（持参）の予定です。雪の中を歩きますので、歩くスキー、かんじきなどがあるとよいと思います。昼食には、例年通り、豚汁がつきます。会費は500円です。また、バス停の名前が藤野２条３丁目に変わりました。間違えないようにご注意下さい。

〔野幌森林公園〕平成６年２月13日（日）

雪の中の探鳥会です。カラ類やキツツキ類などを観察します。その年によって違いますが、アトリ、ウソ、マヒワなどの冬鳥に出会うことがあります。クマゲラに出会えたら最高です。また、雪の上に残るノウサギやキツネなどの足跡が観察できるのもこの季節ならではの楽しみです。素歩きでも参加できます。

午前９時　大沢駐車場入口集合

〔円山公園〕平成６年３月６日（日）

陽射しが春らしくなってきた円山公園内の散策と餌台に集まる鳥を見ます。カラ類キツツキ類などが中心ですがイスカやベニヒワの群に出会った年もあります。午前中に解散しますので、気軽に参加下さい。

午前９時　円山公園管理事務所前集合

〔ウトナイ湖〕平成６年３月27日（日）

春の北へ帰るガンカモ類の探鳥会です。マガン、ヒシクイ、オオハクチョウ、多くのカモ類が集まります。繁殖を控えて、きれいに換羽したカモの雄をじっくりと観察します。また、オジロワシ、オオワシの姿も見ることができます。長靴が必要です。

午前９時40分　ウトナイレイクホテル湖畔側集合

(行)道南バス　新千歳空港発苫小牧行き９：20

〔野幌森林公園〕平成６年４月17日（日）

雪が触け始めた公園内にフクジュソウのかわいい花が咲き、アオジやウグイスが戻ってくる季節です。長かった冬に終わりを告げるように囀りを始めます。中でもこの時期にしか聞けないキバシリの囀りを一度聞いて下さい。

午前９時　大沢駐車場入口集合

〔宮島沼〕平成６年４月24日（日）

宮島沼はマガンが北帰行前に最後に立ち寄る休憩地です。最高時には２万羽を越すマガンを中心に観察します。また、カモ類やカイツブリ類なども見られます。

午前10時　大富会館前集合

〔野幌森林公園を歩きましょう〕

平成６年４月10日（日）

午前９時　大沢駐車場入口集合です。余程の悪天候でない限り行います。

探鳥会の問い合わせは　011－831－8636　戸津宅まで

鳥民だより

◆新年野鳥講演会の開催

新年野鳥講演会を次のとおり開催します。
多数御参加ください。

日　時　　平成６年１月８日(土)午後２時から
場　所　　札幌市女性センター
（札幌市中央区大通西19丁目）
内　容　　①講演「野鳥の声を探る」
野鳥の声の録音で御活躍の織田敏雄氏（ミュージックあんとん主宰、日本野鳥の会札幌支部幹事）に、野鳥の声の録音にまつわるお話をしていただきます。
②スライド映写
みなさんの持ち寄ったスライドを映写します。スライドは、ひとり20枚以内とさせていただきます。
会　費　　500円

◆図書の紹介

「南ウスリーの鳥類１～３」
E・パノフ著（1973）
各冊　¥1000
申込みは　069　帯広市稲田町帯広畜産大学
藤　巻　裕　蔵

◆写真展のご用意を

平成６年も野鳥写真展の開催を予定しております。皆さんの自信作の準備をお願いいたします。

応募要領は例年どおりですが、営巣中の写真などマナーに反すると思われる写真はご遠慮ください。
なお、写真展の写真ですが、これまで、営巣写真については展示しないこと、また、道外で撮影されたものについては、原則として展示しないという扱いをしてきましたが、12月１日の幹事会で営巣写真は今後とも展示から除外するが、道外地での撮影写真については、会員が全国に広っていることや探鳥を道外で行う人がふえてきていることから、展示していくこととといたしました。

〔募集要領〕
・大きさは四ツ切とし、カラー白黒は問いません。
・提出写真には、鳥の種名、撮影年月日、撮影場所及び撮影者氏名の記載をお願いいたします。
・送付先など詳細につきましては、次号でお知らせいたします。

◆平成５年度野鳥写真展の出展作品

平成５年度の野鳥写真展は、５月７日(金)から31日(月)まで、たくぎん本店地下キャッシュサービスコーナーで、さらに、８月４日(水)から10日(火)まで北電エレナードギャラリーで開催し、16人の方々から30点が出品されました。

氏　名	作　品　名	
伊東祐二	カワセミ	カイツブリ
石橋孝継	コオリガモ	マヒワ
難波茂雄	キレンジャクとヒレンジャク	キンザンマシコ
野坂英三	ハシビロガモ	
柳澤信雄	キバシリ	キジバト
山田良造	キンザンマシコ	キレンジャク
山本　一	スズメ	
小堀煌治	エリマキシギ	オオルリ
遠藤　茂	オオマシコ	ウソ
遠藤幸子	ヒレンジャク	ベニバラウソ
酒井一光	キセキレイ	ヤマセミ
佐藤　勇	イスカ	イソヒドリ
佐藤幸典	シロハヤブサ	シロハヤブサ
三船喜克	ツリスガラ(♀)	ツリスガラ(♂)
渋谷信六	ツメナガホオジロ	オオワシ
新城　久	ウミネコ	ヤマガラ
16名	※敬称略(イロハ順)	30点